

読書推進運動



公益社団法人
読書推進運動協議会

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル 6階
TEL 03(5244)5270
FAX 03(5244)5271

発行人 佐々木 泰
編集人 片岡 伸子

No.705

- ★「敬老の日読書のすすめ」書目決定 (2頁)
- ★「第80回 読書週間」開催について (3頁)

定価 60円 会員の購読料は
会費の中に含まれる



「敬老の日読書のすすめ」によせて

90歳の「キョウヨウ」に学ぶこと

株式会社新潮社 出版部

こばやし ゆき
小林由紀

日々の食事は簡素を心がけ、落語は読んで鑑賞。通信販売で失敗ショッピングを経験し、ときに亡き人の思い出に親しみ、月の輝きに孤独の矜持を学ぶ。

『90歳、男のひとり暮らし』は、短篇小説の名手・阿刀田高さんが老いを受け止めながら「何事もまあまあで充分」の精神で送る日常を、率直かつ軽妙に綴ったエッセイ集です。発売前から多くの問合せをいただき、国内だけでなく韓国のメディアでも紹介されるなど、今や国境を越えた広がりを持つ一冊となっています。

僚から「黒井さんのように自らの老いを等身大に書いてくださる作家さんはいませんか」と相談され、すぐに思い浮かんだのが阿刀田さんでした。

そのとき阿刀田さんは89歳。妻・慶子さんの介護施設入所に伴い、ひとり暮らしを始めておられました。90歳目前で生活が一変するとはさぞたいへんなものでは……と案じていましたが、以前と変わらず身綺麗になさって、ご自宅はいづうかがつてもきちんと片付いており、お食事についても「適当に自炊で済ませています」とこともなげに仰る。同世代の男性には家事経験ナッシングの方も多いはずなのに、この生活力はどこから来るのだろうか？ 阿刀田さんの日々のルーティンや暮らし

の哲学は世の高齢単身者の参考になるのではなからうか？ そう考えて執筆のお願いをすると、「私の私生活に興味を示す読者なんているのかな」と訝りながらも「この歳で新しい分野に挑戦できるのはうれしいこと」と、短期間で一冊ぶんのエッセイを書きおろしてくださいました。

原稿を一読して感嘆したのは、自分で自分を愉しませる術にたいへん長けていらつしやるということ。たとえば、眠れない夜に源氏物語の帖名や百人一首を順番に唱えらるといったエピソードには、一種のゲームを作り出してひとりの時間を充実させる知恵が見て取れます。複雑な漢字を覚えるために語呂あわせを考え出す、といったことば遊びも

そう。「教養にはこんな使い途があるのか」と目を開かれる思いがしました。

また「教養がある」ならぬ「今日、用がある」ことも重要だと阿刀田さんは説きます。病院の診察や宅配便が届くといった小さな予定も、高齢者の生活にリズムと張り合いをもたらしてくれる大切な「今日、用」。予定があることは生きるモチベーションに繋がる——高齢者のみならず、あらゆる世代に普遍的な真理ではないかと思えます。

じつは本書の発想の源となった黒井千次さんと阿刀田さんは、同じ高校の先輩・後輩で在校時からたがいの存在を知っていた70年超の間柄。刊行記念に行った対談「90代の歩き方」は、おふたりの間に流れる親しみと滲み出る知性に彩られた素敵なものとなりました。新潮社HP『90歳、男のひとり暮らし』の紹介ページ (<https://www.shinchosha.co.jp/book/603935/>) よりぜひ一読ください。



2026 敬老の日読書のすすめ

心ゆたかに生涯読書

「2026 敬老の日読書のすすめ」は、各道府県の読書推進運動協議会から寄せられた「敬老の日（高齢者）にすすめる本」の推薦書目をもとに、公益社団法人読書推進運動協議会事業委員会が24点の本を推薦図書に選定、リーフレットを製作し、全国の公共図書館や有力書店に配布します。

本年度は39の読進協から、71点の書目の推薦をいただきました。もともと多くの推薦があったのは、阿刀田高の『90歳、男のひとり暮らし』で、9つの読進協から推薦がありました。ついで、高橋源一郎の『ぼくたちはどう老いるか』と杉山響子の『憤怒の人・母・佐藤愛子のカケラ』が6つの読進協から、唯川恵の『60代、日々好日時々ため息』が4つの読進協から推薦があり、人気を集めました。今回は、エッセイ集への推薦が多く、小説への推薦が少なかったため、1冊のみの掲載です。次回には推薦が増えることを期待します。

事業委員会の書目選考基準は、①各出版社1点 ②複数県推薦書目の検討 ③対象読者向きか ④そのほか各委員が特別に推薦したい書目などを勘案して検討。メール



落ち着いた紅色のリーフレットです

ルでの投票と意見交換を行い、最終的に委員会全体で24点を確認、決定いたしました。

この推薦図書を掲載したリーフレットは、13万3000部を製作。各都道府県の読書推進運動協議会や中央図書館を通じて各公共図書館に、取次会社を通じて全国の書店に配布し、活用していただきます。当協議会ホームページに、展示用ポップのデータ（PDF）もあります。

リーフレットは多少の準備を用意しております。必要な方は、早めに当事務局までお問い合わせください。

☎03-5244-5270
FAX 03-5244-5271
e-mail info@dokusyo.or.jp
ホームページ

<http://www.dokusyo.or.jp/>

「敬老の日読書のすすめ」リーフレット掲載書目一覧

著者名	書名	定価	出版社
阿刀田 高	90歳、男のひとり暮らし	一八七〇円	新潮社
高橋源一郎	ぼくたちはどう老いるか	一五五〇円	朝日新聞出版
秋山 仁	数学者に「終活」という解はない	一二一〇円	講談社
田村セツコ	最後までひとり暮らし	一五四〇円	明日香出版社
岸本 葉子	おひとりシニア、1年生	一八七〇円	中央公論新社
柳家 三三	風まかせ十二カ月	一九八〇円	岩波書店
朝井まかて	グロリアソサエテ	二三一〇円	KADOKAWA
杉山 響子	憤怒の人 母・佐藤愛子のカケラ	一八七〇円	小学館
唯川 恵	60代、日々好日時々ため息	一七六〇円	光文社
阿川佐和子	年とる力	一〇四五円	文藝春秋
和田 秀樹	65歳、いまが樂園	一〇四五円	扶桑社
シヨコラ	60代から夢をかなえるひとり旅	一七六〇円	すばる舎
大西 暢夫	炎はつなぐ	二七五〇円	毎日新聞出版
みぎやまハナコ	笑いあり、しみじみありシルバークリイ	一二一〇円	河出書房新社
河出書房編集部	比留間榮子	一五四〇円	サンマーク出版
小林まさる	92歳、小林まさるの脳トレス	一六五〇円	Gakken
川島隆太	おばあちゃんのおおいバラ	一六五〇円	ポプラ社
森みどり	りおのおりがみ	一六五〇円	あすなろ書房
由美村婚々	老いてこそA	一六五〇円	主婦と生活社
室井さとし	見てすぐ使える！70歳からのスマホでA	一七六〇円	祥伝社
岡嶋裕史	65歳からは戦略的ちよいデフ	一六五〇円	青春出版社
和田 秀樹	わたしの骨はどこへいく？	一九八〇円	集英社
安田 依央	老いと介護の日本史	一八七〇円	吉川弘文館
新村 拓	棺桶まで歩こう	一〇三四円	幻冬舎
萬田 緑平			



2026・第80回 「読書週間」開催についてお願い

公益社団法人 読書推進運動協
議会は、恒例の秋の行事「読書週
間」を、本年も主催いたします。

例年同様の「ご支援」と協力をお
願い申し上げます。期間
中およびその前後を通じ、自由な
発想による企画を多数お進めいた
だき、この運動の実効があらま
すよう、お願い申し上げます。

今年の標語は『静かだけど、冒
険中。』です。期間中関係各位に
よって全国的に実施される行事
は、この標語を中心に展開される
こととなります。

近年、電子図書館サービスや学
校教育におけるタブレットの活用
が進み、読書環境が大きく変化
してきました。その一方で、対
面での読み聞かせや読書会の魅
力、書店や図書館でリアルに本を
選ぶ楽しさも再認識されていま
す。図書館での各種行事、「BOOK
MEETS NEXT」など出版界・
書店によるイベントを通して、「読
書週間」が紙・電子を問わず、本
を通じて人とふれあい、世界が広
がるようごびを、多くの方に実感

していただく機会となることを願
います。

公益社団法人 読書推進運動協
議会は、下記の4項目を「読書
週間」のテーマとして掲げてい
ます。

(1) 国民すべてに

読書をすすめる運動

「秋・読書週間」に、ぜひ、一冊の
本を」が活動の原点です。「読書
週間」は、読書の楽しさを伝え
すべての世代の人たちに本に親し
むきっかけをつくっていただくた
めにあります。多くの人が書店や
図書館で一冊の本を手にとってみ
る、そんな展示や行事を期待して
います。

(2) とくに青少年に

読書をすすめる運動

いつの時代も「子どもが本を読
まなくなった」といわれてきまし
た。近年は、社会の急速なデジタ
ル化やSNSの普及などで、ま
すます子どもたちの「読書」の
時間がせめられています。しか

し、どんなにメディアが多様化し
ても、それを動かす主役が人間で
ある以上、活字文化はすべての
メディアの基礎です。とくに幼少
時から青少年時においての本との
つきあいが重要という認識のもと
に、この運動を進めています。

(3) 読書グループの結成促進

現在、全国の読書グループ「読書
会・文庫・実演グループなど」は
約1万1700あります（公益
社団法人 読書推進運動協議会
『2023年度 全国読書グループ
調査』より）。グループ読書は読
書の楽しみ、大切さを広めること
で深い意義を持ちます。公益社団
体法人 読書推進運動協議会は「読
書週間」の期間中に「野間読書推
進賞」と「全国優良読書グループ表
彰」を実施し、全国の読書グループ
を応援しています。

(4) 家庭文庫、地域文庫の 充実

読書は身近な場所に本が豊かに
あることが必要です。各地域の公

共図書館が充実し、読書グルー
プや家庭文庫、地域文庫が数多く作
られること、また、図書館や文庫
を支える地域の書店の活躍が、本
の文化を支え、ひいては日本文化
の発展に寄与することと私たちは
信じています。

2005年（平成17年）7月29
日に公布された「文字・活字文化
振興法」により、10月27日が「文
字・活字文化の日」と制定されて
います。「読書週間」とともに、「文
字・活字文化の日」もおおいに広
めていただきたいと存じます。

記

名称 2026・第80回

読書週間

主催 公益社団法人

読書推進運動協議会

（主要構成団体 日本書籍出

版協会、日本雑誌協会、教

科書協会、日本出版取次協

会、日本図書館協会、全国

学校図書館協議会、日本書

店商業組合連合会）

後援 文部科学省

期間 10月27日（火）から11月9日

（月）まで

標語 静かだけど、冒険中。

《行事内容》

●「全国優良読書グループ表彰（第
59回）」の実施

●「野間読書推進賞（第56回）」
贈呈式開催

●ポスターおよび広報文書配布
（公共図書館、全国の小・中・高
等学校図書館、書店、関係出版社、
報道機関など）

●その他、道府県の読書推進運動
協議会、関係各団体の協力を得て、
各種行事実施の推進

《各種機関へお願いの行事内容》

●公共図書館、公民館、小・中・
高等学校の学校図書館などにおい
て「読書研究会」「読書のつどい」

「作家・評論家による講演会」「図
書雑誌展示会」著者をかこむ会」
などの開催。「読書感想文・感想
画コンクール」の実施

●道府県の読書推進運動協議会に
よる道府県単位の「読書大会」な
どの開催

●出版社、新聞社、放送局、文化団
体などによる、被災地域、児童
養護施設、矯正施設などへ向けた
「図書・雑誌の寄贈運動」の実施



読書推進運動協議会
公式 X（旧 Twitter）

「子どもの読書推進会議」総会開催

上野の森親子ブックフェスタ、絵本ワールドともに好調な展開

7月10日(金)、東京都千代田区の出版クラブビルにおいて「子どもの読書推進会議」の2026年度第1回総会が行われた。推進会議を構成する各団体から28名の委員が出席した。

総会の冒頭、野間省伸推進会議代表は議長としてのあいさつで、「子どもたちが活字や文章に触れる環境は、大きな変化に直面している。私たちはこれからも連携を強化し、子どもたちに本を手渡す機会を増加させていかなければならない」と述べた。

議事1として、事務局より



主催団体の多様化が進む絵本ワールド
(写真は2025年度 沖縄会場)

2025年度の事業報告があり、「上野の森親子ブックフェスタ」と、「絵本ワールド」事業を中心に報告、承認された。

議事2として、「2025年度収支決算書」について、明細も含めた説明があり、監査役より適正な手続きで監査を行い完了した旨の報告があった。2025年度からの繰越金額の報告があり、収支決算書も承認された。

議事3の「2026年度収支予算書」の説明を行った。「上野の森親子ブックフェスタ2026」拠出金、絵本ワールド事業などを中心に、2025年度よりすこしきりつめた予算を計上していることを報告し承認された。さらにその他として、本年5月4日(木)・5日(金)開催の「上野の森親子ブックフェスタ2026」では、来場者数、売上金額ともに前年より増加したしたことや、オペレーション合理化の徹底を継続していること、などを報告した。

最後に構成各団体より活動報告があり、閉会した。

JBBYフォーラム・講演会

子どもの本から多くの文化と価値観にふれる

一般社団法人 日本国際児童図書評議会(JBBY)は、9月6日(日)に「第7回 JBBY 子どもの本の翻訳フォーラム『平和を考える』—翻訳家の立場から—」をオンラインで開催する。パネリストは、愛甲恵子さん(ベルシャ語翻訳家)、宇野和美さん(スペイン語翻訳家)、野沢佳織さん(英語翻訳家)。コーディネーターは笹岡智子さん(児童図書館員)が

務める。参加には事前の申し込みと参加費が必要。配信はZoomを使用。申込者は10月6日(火)正午まで、当日の録画を視聴できる。また、10月25日(日)には「JBBY 国際講演会『こころを自由に解き放つ ローラ・カーリンが創る絵本の世界』」を、出版クラブビル会議室(東京都千代田区)で開催する。数々の国際賞を受賞しているイギリスの絵本作家 ローラ・カー

■日本子どもの本研究会 全国大会

講演講師にさくまゆみこさん・真鍋和子さんが決定!

一般社団法人 日本子どもの本研究会は、「第58回 日本子どもの本研究会 全国大会」を10月10日・11日に、国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)で開催する。テーマは「未来をひらく子どもと本—聞いている話—」。

10日の開会式では、同会会長の代田知子さんの基調報告と、さくまゆみこさん(翻訳家)の記念講演が行われる。実践発表をもとに意見を交換しあう講座は「子どもの読書環境」「ブックウェビング(入門)」「平和を伝える」ほか5つを用意。一冊の本の読みを深める読書会は、「絵本」「児童文学」「科学」など5つのジャンルが予定されている。

11日の分科会では、「小学生と読書」「中高生の読書」「学校図書館」「地域と読書」「出版と子どもの本」

リンさんを招き、創作プロセスや作品にこめた思いを聞く。通訳は武富博子さん(翻訳家)。参加には、事前の申し込みと参加費が必要。そのほか、JBBYは、6月に大きな地震に見舞われたベネズエラで活動するバンコ・デル・リブロ(Banco del Libro: 本の銀行)へ、国際児童図書評議会(JBBY)を通じて募金への協力を呼びかけている。

フォーラム・講演会の詳細と申込方法、募金の受付先など詳細はJBBYまで。



JBBY サイト
QR コード

「絵本」「障害と読書」「ノンフィクション」が開かれる。閉会講演は、真鍋和子さん(児童文学作家)が講師を務める。

講演テーマや、講座・読書会・分科会の詳細は、順次、同会ホームページ(<https://www.jaschonken.com/>)で紹介される。参加には参加費と事前の申し込みが必要。参加申し込みは8月16日より受けつける。また、宿泊予約も受けつける。



日本子どもの本研究会全国大会
参加申込
QR コード

■「第59回 造本装幀コンクール」

読書推進運動協議会賞は
美しい物語をみごとに表現した一冊

日本書籍出版協会・日本印刷産業連合会が主催し、出版物について印刷、製本、装幀、デザインなどの本づくりの製作・技術的な観点から総合的に評価・顕彰する「第59回 造本装幀コンクール」の受賞作品が発表された。

審査会は6月3日(水)に行われ、2025年に初版が刊行された書籍が対象、応募があった169者295点のなかから各賞22点が選出された。同コンクールにおいては、後援団体賞として「読書推進運動協議会賞」を毎回選出している。

今回は『涙の箱』（評論社）を



見ただけで引きこまれる『涙の箱』
◎ 造本装幀コンクール

選出した。2024年にノーベル文学賞を受賞した韓国人のハン・ガンのによる童話。本国では2008年に刊行されてロングセラーとして読み継がれているとのこと。周囲がまるで予測も理解もできないところで、いつも涙を流す少女と、涙を集めていて、黒い箱にさまさまな涙を入れて持ち歩いているという男性の物語。

涙をめぐって展開する、このせつなくも美しい作品世界を、日本版では junaida の挿画、水野哲也の装幀で、オリジナルのみごと一冊のパッケージとして結実させている。

ブックデザインの新たな見地からは、一般的なの四六判、並製の造本ながら、ゆたかな色彩で少女を描いたカバー、透明感のある見返し、インパクトのある扉ページ、そして静かでおちついた本文と、物語の魅力を一冊の本のかたちとして表現していると感じた。

7名の三賞選考員が選ぶ「三賞」は今回は以下が選ばれた。



今回の三賞受賞作
◎ 造本装幀コンクール

・文部科学大臣賞Ⅱ 『吉田亮人「The Dialogue of Two」』

(Three Books / 鈴木萌、吉田亮人 装幀)

・経済産業大臣賞Ⅱ 『Dropped Water, Dropped Fruit』(COO BOOKS / 宮添浩司 装幀)

・東京都知事賞Ⅱ 『詩集 雲ノ平』(今宿未悠、曽根翼 装幀)

他の賞などの詳細については同コンクールのウェブサイト <https://www.jpba.or.jp/zohon/zohon-index.html> に書影ともに掲載されている。

9月30日(水)から10月22日(木)の予定で、第59回 造本装幀コンクールの受賞作品をはじめ全応募作品308点が東京都千代田区の出版クラブビル、クラブライブラリーで公開展示される。

■千代田図書館 出版情報交換会

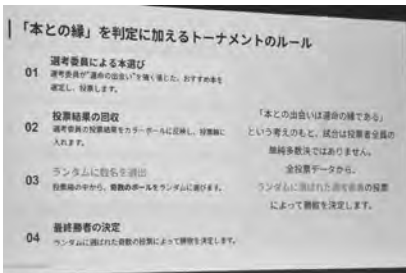
地域の書店、図書館の連携で
出版文化を支える

7月10日(金)、日比谷図書館(東京都千代田区)で、「千代田図書館・出版情報交換会」動き始めた業界連携Ⅱ(主催Ⅱ千代田区立千代田図書館)が開催された。

この情報交換会では、これまで「図書館の欠本調査」「図書館での本の販売」などを提案、報告。今回は、現在進行している図書館・出版社・書店の連携事業を、株式会社トーハンと一般社団法人ホンミライが発表した。

トーハンは、「本のタッチポイント」となる地域書店の開業を支援する「HONYAL」を紹介。

ホンミライは、作家・今村翔吾さんが発起人の、全国47都道府県を代表する本が一堂に介する文学賞「本の甲子園」を日本出版販売などと展開する。「本の甲子園」は、①各都道府県在住の作家が自作をエントリー ②エントリー作を対象に、各都道府県の図書館職員が投票し、都道府県の代表を決定 ③決定した代表でトーナメント審査を行い、頂点を決める。トーナメント審査員は対戦ごとにランダムに決められるなど、「本との縁」も判定に加えられる。地元作家の応援を通じて、地域の出版文化の振興にもつながると期待される。



「本の甲子園」のユニークなトーナメントルール。
選考委員を務めるのは全国の図書館員

優良読書グループの歩み (8)

2025年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。

(順不同)

おはなしさんた恵夢

代表者 内倉真裕美

北海道恵庭市

〈推薦〉

北海道読書推進運動協議会

1989年ニータウン恵み野で「手作りの文化を子どもたちに」このことばを発したのが、「おはなしさんた恵夢」の代表、内倉真裕美です。

なにもない町なら、なんでもできる！

彼女の逆転の発想に共感し集まった主婦たちと始めた活動も、もう36年が経ちました。家族会員数は当時、最高で200家族以上、すべて手作りの人形で人形劇をやったり、厚紙に下絵を書いたものを子どもたちと一緒に色を塗って大型紙芝居を作ったり。そして、それは月1回の例会で、みんなで上演して楽しむこと以外に、小学校・幼稚園・保育園・子育て支援セン

ターなどでもお披露目したり、また、老人施設からも講演依頼をいただくこともありました。

地域のお祭りでは、手作り花笠で花笠音頭を、手作り法被を着てはソーラン節を、大人も子どもも一緒に踊って踊って盛りあげました。なかでもいちばんは、札幌市教育文化会館でオリジナル人形劇を150名もの大人と子どもでやった公演です。とてもたいへんでしたが、その何倍も楽しい充実した公演となりました。このように、いろいろな物語の世界や伝統芸能などに、子どもたちと一緒にふれあっている活動を中心としていました。

1992年7月、恵庭市立図書館がオープン。このころから活動の中心が少しずつ、読み聞かせへと変わってきました。まずは、図書館で読み聞かせをやっていることを知ってもらうために、小学校のお昼休みに読み聞かせをしに行ったりしました。でも、今の子どもたちは習いごとなどがいそが

手作りの文化で地域を豊かに



市内の花の拠点はなふるで月1回の読み聞かせを行っています。年1回は大人の遠足と題し、さまざまなところに出かけたり、近隣の図書館の見学に行ったりしています。

めて25年が経ち、現在にいたります。今では、こども図書館を始め、子育て広場での赤ちゃんへのおはなし会、地元の幼稚園、保育園、小中学校、聴覚障がいのある子どもたちの放課後デイサービスへの出前のおはなし会など、活動の場が広がっています。さらに、助成金などを利用して、大型絵本を少しずつ購入し、活動を豊かにしてきました。

おはなしエルマー

代表者 宮奥 祐子

広島県広島市

〈推薦〉

広島県読書推進運動協議会

「おはなしエルマー」の発足は、子ども読書年であった2000年に始まります。当時はあちらこちらで、子どもの読書に関するさまざまなイベントがあり、とても楽しかったことを思い出します。

そのイベントのひとつに、広島市内の公民館で、読み聞かせボランティアを養成する連続講座があり、そこで知りあつた仲間と一緒に、地元の吉島公民館で活動を始

現在、会員数は10数名となり、平均年齢も高くなりました。読み聞かせは月2回、数年前からは、

発足当時は、就学前の子ども向けの読み聞かせを考えていました。ところが、募集しても子どもが集まらず、そのうち学校で週休2日制が始まって子どもたちが忙しくなり、読み聞かせだけでは子どもを集めるのが難しくなりました。

そこで、絵本と実体験をつなぐワークショップ「えほんであそぼう! ぼうけんエルマー」を始めました。料理、遊び、工作を中心に、年間8回ほど企画して20年近くになりますが、毎回メンバーたちが楽しい企画を考えるので、こまることはありません。具体的には、テーマとなる絵本を読み、活動の内容を説明して実体験につなげていきます。これを続けてきたことで、さまざまな絵本や本を知ること

とができました。

初めは、メンバーの子どもたちが中心になって参加していましたが、今では、孫たちを連れて参加する方もいます。

また、読み聞かせにくる子どもが低年齢化して、絵本だけではお話会がしにくくなりました。スキルアップのために、わらべ歌の講演会を、活動拠点である吉島公民館のバックアップを得て企画運営しました。

25年の間には、公民館の移転や、メンバーの休会や入れ替わりがありました。ゆるやかに無理のない範囲で、続けてこれました。それは、子どもが好きなメンバーだったからではないかと思っています。

そして、広報や打ちあわせの場所の提供などで、活動を支えてくださる吉島公民館や、本の貸し出しや相談につけてくださる図書館が近くにあったから、「おはなしエルマー」の活動を25年も続けてこれたかと感謝しています。

これからも、仲間と元気に、ゆるやかに活動していきたいと思っています。

読書ボランティアグループ虹色のゆめ

代表者 下村佳代子
鹿児島県出水市
鹿児島県読書推進運動協議会

《推薦》

「虹色のゆめ」は、出水市立高尾野図書館親子読書教室に親子で通う仲間と活動を始め、2000年に成立しました。

現在の会員は10名で、月に1回程度の話し合いを高尾野図書館で行い、市の事業「お話玉手箱」のプログラムを考えたり、選書をしたりしています。

市の事業「ブックスタート」や「セカンドブック」の際に読み聞かせをしたり、年1回の「わくわく☆おはなしフェスタ」に参加したりしています。また、「お話玉手箱」では、子ども会や児童クラブに出向いて、おはなしのほかにアニメーションや手遊びなどとしています。最近では、高齢者の「いきいきサロン」に呼ばれることも多くなりました。高齢者には、落語をすると言われます。

ほかには、小学校・義務教育学校で行われている朝のおはなしの時間や親子読書会にも呼ばれて行

きます。

「お話玉手箱」や親子読書会で読む本は、「テーマ」を決めて選ぶようにしています。例えば7月8月は「平和」、12月は「クリスマス」といった感じです。

『ぐりとぐらのおきやくさま』を読んだときに、紙粘土で大きなクリスマスケーキを作った最後に出したら、子どもたちが「ほんもの?」とびっくりして見ていました。

また、子どもたちが飽きないよう、合間で手遊びやアニメーション、簡単な製作活動をするようにもしています。6月は高尾野図書館の「夜のお話会」で、『うみの100かいだてのいえ』を読みまし



子どもたちが楽しめるプログラムを心がけて

た。読んだあとに、「自分の海の家を作ってみよう」と、魚のシールを貼ったり、絵を描いたりして、おはなしのおうちを作ってみました。

子どもたちが、隣の友だちと1階はくらげ、2階は魚とおしゃべりしながら楽しそうに作っている様子をみると、絵本の世界が広がっていくなあとうれしくなりました。

A1が進化していき、教科書までもタブレットを使う子どもたちの教育環境ですが、「本を読み想像すること」や「感想を友だちと共有すること」など、A1にはできない、本の魅力を伝えていきたいと思っています。

訂正とお詫び

『読書推進運動』704号(2026年7月15日発行号)に1ページ目の写真キャプションにおいて、新役員の上床憲司さまのお名前に誤りがございました。ここに訂正し、深くお詫び申し上げます。

【誤】

上床賢司氏

【正】

上床憲司氏

令和8年熊本地震で被害を受けられた地域のみなさまに、心よりお見舞い申し上げます 公益社団法人 読書推進運動協議会

公益社団法人 日本図書館協会(日図協)では、過去の災害を教訓として、これまで集めた情報や課題を基に、被災後の図書館復旧に向けての情報を提供しています。

●被災された図書館の皆様へ

<https://www.jla.or.jp/committees/saigai/strickenlib/>

また、日図協では「2026年度 災害等により被災した図書館等への助成」を希望する図書館を、9月30日(木)まで募集しています。

●2026年度 災害等により被災した図書館等への助成

<https://www.jla.or.jp/committees/saigai/saigaijosei2026/>



2026 第80回 読書週間 ポスターイラスト決定！

7月17日(金)、公益社団法人読書推進運動協議会の「読書週間ポスターイラスト選定事業委員会」(出席16名)が開催され、「2026第80回 読書週間」のポスター用イラストが決定しました。

本年度の応募総数は3233点。

事務局による第一次選考で22点を選び、第二次選考ではデザイナー2名が12点を厳選。最終選考を事業委員会による選考委員会が行い、大賞、優秀賞、入選の受賞者を決定しました。

■大賞(賞金10万円)——1名
永森 稚苗さん (福岡県福岡市)



大賞
(ポスターイラストに採用)
永森 稚苗さん

■優秀賞(賞金1万円)——3名
小堤ちひろさん (茨城県鹿嶋市)
Yuko Nishigakiさん (神奈川県横浜)

栗林 卓矢さん (兵庫県神戸市)
■入選(記念品)——8名
時東 沢果さん (埼玉県川越市)
井之上竜子さん (埼玉県新座市)
下吹越直紀さん (東京都江東区)
弘法 藍さん (東京都東村山市)
小林 理恵さん (東京都町田市)
ひみの たいさん (長野県中野市)
石丸 そよ花さん (岐阜県可児市)
もとやまさこさん (広島県広島市)

本年度のポスターイラストは、

標題「静かだけど、冒険中。」をテーマに募集。竜やお城、洞窟といった、冒険ファンタジーに登場するものや、本の中を探検する様子、静かなイメージから夜の風景を描いたものなどが多くありました。

大賞を受賞したのは、福岡県在住の学生、永森稚苗さん。宇宙がモチーフの「読書週間」ポスターは、はじめてになります。

優秀賞は、左のとおりです。受賞作はすべて、読書推進運動協議会ホームページに掲載します。



小堤ちひろさん



栗林 卓矢さん



Yuko Nishigakiさん

事務局報告(7月)

- ☆1日「第59回 全国優良読書グループ表彰」推薦を道府県読書推進運動協議会へ依頼
- ☆6日「会員社」総会報告書および会費請求書を送付
- ☆6日「機関紙」読書推進運動」704号入稿
- ☆6日「機関紙」読書推進運動」704号責了
- ☆8日「読書週間ポスターイラスト」事務局選考会開催
- ☆9日「読書週間ポスターイラスト」デザイナー選考会開催
- ☆10日「日本雑誌協会」読書週間」広報広告掲載協力を依頼
- ☆10日「2026年度子ども読書推進会議第1回総会」開催
- ☆10日「千代田図書館・出版情報交換会」出席(日比谷図書館文化館)
- ☆15日「機関紙」読書推進運動」704号出来
- ☆17日「読書週間ポスターイラスト」選考事業委員会開催
- ☆17日「敬老の日読書のすすめ」リーフレット「読書週間」趣旨書入稿
- ☆17日「文部科学省」令和8年度読書活動推進事業」審査提出
- ☆21日「敬老の日読書のすすめ」リーフレット「読書週間」趣旨書責了
- ☆22日「読書週間」後援依頼を文部科学省へ送付
- ・22日「子ども読書のすすめ」リーフレット「読書週間」趣旨書責了
- ・22日「読書週間」後援依頼を文部科学省へ送付
- ☆28日「第2回常務理事会」開催
- ☆29日「敬老の日読書のすすめ」リーフレット「読書週間」趣旨書出来
- ☆31日「第56回 野間読書推進賞」推薦締め切り(消印有効)
- ・31日「第31回 日本絵本賞」表彰式出席(全国家長会館)

編集部・事務局の ひとこと

●毎年参加している「小布施展にマラソン」(長野県)。今回で参加10回目となるのを記念し(？)、はじめてキャラクターもののTシャツとチャーム着用で走ったところ、子どもたちに声をかけられ、うれしくなりました。

●この大会、仮装ランナーが多いことでも知られています。多いのは、アニメのキャラクター。毎年参加(?)しているのは、アンパンマン(アニメ版)、ミニオンズ、マリオ、ピカチュウなど。市販のコスプレセットから、手作り衣装、発泡スチロールや段ボールで作った人までと、同じキャラクターでも千差万別です。

●『魔女の宅急便』のキキも、ほぼ毎年参加。赤いリボンとワンピース姿でほうきを持ち、肩に黒猫ジジ(ぬいぐるみ)が乗っています。ときどき、人間大のジジと一緒に走っているキキもいます。大谷翔平選手のユニフォームを着た人と人間大デコピンが走る、というのもあります。どちらも、動物役のランナーの方がつらそうです。

●今年は、赤と青のおそろいの帽子とオーバールールにかわいいお耳の『ぐりとぐら』を複数、発見しました。絵本のキャラクターに出会えたことは案外少なく、『はらぺこあおむし』『ウオーリーをさがせ!』を見かけた年があるかないか。読書推進のために、私も絵本キャラクターの仮装に挑戦すべき気がしてきました。『おいしいのぼうけん』の「ねずみばあさん」となつて走る日が、いつかくるかもしれません。(伸)